

日蓮大聖人御書全集

あんじちしゆふくしよ

庵室修復書

新版
1870

あんじちしゅふくしよ

庵室修復書

けんじ

ねん

建治 3 年 ('77)

さい

なんじようときみつ

えんじや

56 歳

南条時光の縁者

い ぶんえいじゅういちねんろくがつじゅうしちにち

やま

木

去ぬる文永十一年六月十七日に、この山のなかに、きを

打 切

仮 初

庵 室

造

そうら

うちきりて、かりそめにあんじちをつくりて候いしが、

漸 しねん

柱 朽

垣

壁

落

そうら

ようやく四年がほど、はしらくち、かきかべおち候えども、

直

夜 火

点

つき

光

なおすことなくて、よるひをとぼさねども月のひかりにて

しようぎよう

読

我

おんきよう

巻

そうら

聖教をよみまいらせ、われと御経をまきまいらせ候わ

かぜ

吹

返

そうら

ことし

ねども風おのずからふきかえしまいらせ候いしが、今年は

じゅうに

柱

しほう

頭

投

しほう

壁

いっ所

十二のはしら四方にこうべをなげ、四方のかべは一そに

倒

たおれぬ。

有 待 保

難

つき 澄 あめ 止

励

うだいたもちがたければ、月はずめ雨はとどまれとはげ

そうら

にん 夫

学 生

責

み候いつるほどに、人ぶなくしてがくしようどもをせめ、

じき

雪

いのち

助

そうろう

食なくしてゆきをもちて命をたすけて候ところ、さき

上 野 殿

芋 に だ

いち 駄

珠

過

にうえのどのよりいも二駄、これ、一だはたまにもすぎ。